

第14回 N I E 帯広・十勝セミナー 実践発表資料

日時 平成28年 2月 6日 (土)

場所 十勝毎日新聞社5階会議室

発表者 清水町立御影中学校 教諭 乙戸貴宏

〈個性・長所を活かしたN I E活動～チームで・学校全体で取り組むN I E～〉

1 はじめに

私が、第6回N I E帯広・十勝セミナーで実践発表してから8年程が経った。実践指定校として活動したあの頃を思い起こしてみると、担当が企画した様々な取組を子ども達は文句も言わず活動してくれ、地域を巻き込んだ良い教育効果が現れていた気がする。

あれから数校経験し、それぞれの学校でN I Eの実践を行ってきた。時代が変化しても子ども達の前向きな姿勢は変化することは無かった。しかし、担当者が転勤等で学校を離れると、どの学校も実践を継続することが困難となり、活動が終了していった。

その経験から本校では、担当者だけが実践に取り組むのではなく継続した活動にするために、学校全体を巻き込んだチームの育成を主眼に置き実践を行っている。

2 本校とN I Eの関わり

今年度からN I E実践校の指定を受け本格的に取組をスタートさせた。指定以前から新聞を活用した活動を担任や教科担任が行っている。昨年度は他の実践者がこのセミナーで発表するなど、本校のN I E活動は継続性をもち、学校全体としておこなおうとする環境が整いつつある。

国語担当者は、北海道新聞の「みらい君の広場」に3年間、子ども達の考え、意見を投稿する活動を教科の一環でおこなっている。新聞で取り上げられた記事を学校だよりに紹介するなど、学校のみならず家庭・地域にも取組状況を紹介している。

「みらい君の広場」掲載～3年K.T

北海道新聞に小・中・高校生の意見を載せる「みらい君の広場」という投稿欄があります。本校では3年前から、国語の時間に書いた作文をこのコーナーに応募しています。これまで、10名以上の生徒の意見が掲載されました。7月2日の北海道新聞にはK.Tの「子供たちの笑み支えに行事参加」が・・・ 御影中学校学校だよりH27.7.23 発行より抜粋

文化祭時期には学年の担当者を決め、壁新聞を作成している。今年度は、全十勝壁新聞コンクールで全学年が金賞を受賞するなど、子ども達の記事作成の技術・技能は毎年向上している。壁新聞作成にあたり、外部に講師を依頼し、講習会を開催するなど、子ども達、教師共に前向きな姿勢が見られる。

第29回中学校全十勝壁新聞コンクール金賞作品兼第14回全道中学校かべ新聞コンクール特別賞作品



1年 蒼天 (そうてん)



2年 寿星 (カランコエ)



3年 鈴蘭 (すずらん)

3 本年度の取り組み

1) 「道徳の時間」教材作成

「私たちの道徳」の内容を「はがき新聞」に作成し、教材として活用



2) 学級活動 (主に2年生で)・・・子ども達の個性を活かした取組

(書写)

新聞選択

キーワード

感想



(平成28年1月9日十勝毎日新聞より)



私がこの字を選んだ理由は、高齢者などの体の不自由な方をサポートする会社が自発的にボランティアで活動してくれているというのが、とても親切な感じがした。優しい物を持つときは、自分も優しく、思いやりを持って、たどらば、利用者に付き添い、荷物を持って運ぶなどしてあげます。介護ヘルパーの先頭を持つ。たどらば、一人のイ、利用者は安心してサービスを受けられると思います。

(絵画)

新聞選択

描写

感想



この新聞が非常に面白く、感動を覚えました。特に、東福岡の選手たちの活躍が印象的でした。彼らは長い歴史を持つチームであり、その伝統と努力が感じられました。また、準優勝という結果も、チームの成長と向上を示していると思います。この経験を通じて、自分自身も頑張りたいと決意しました。

(平成 28 年 1 月 12 日十勝毎日新聞より)

(要約)・・・文書をまとめる力



ソフトバンクのビットコインに関する記事を読みました。ビットコインはデジタル通貨として注目を集めており、ソフトバンクも積極的に取り組んでいます。記事によると、ビットコインの取引額は年々増加しており、多くの企業が導入を検討しています。また、ビットコインの匿名性や国際的な取引の利便性が、企業にとって大きなメリットとなっています。しかし、ビットコインの価格変動が激しいことや、セキュリティ上のリスクも懸念されています。今後のビットコインの発展とソフトバンクの取り組みに注目したいと思います。

(平成 27 年 11 月 20 日北海道新聞より)

3) NIE実践紹介・・・本校の先生方や子ども達に対するコーディネート

4 課題

当初は、毎日配布される新聞を遠目で眺めていた先生方も、教科の特性や学級活動のために新聞を活用してくれることが多くなった。ただ、子ども達の個性・長所を伸ばすためのNIE活動は有効な手段なのだが、新聞を読まない先生には必要性を感じていないのではないかと。

NIEの取組を長く継続するために、強固なチームづくりを目指している。今年度の活動を見て、複数の教員が興味を示してくれた。ただ、NIEという言葉に高い敷居を感じている教員は少なくはなく、丁寧な説明が必要であった。

学級活動は主に2年生で行った。どの子ども達も意欲的に楽しんで活動してくれた。全学年、学校全体の取組にするためにも管理職の理解や各先生方の協力が必要となる。

5 まとめ

先生方がそれぞれ行っている点の活動を1つに結びグループ・組織にすることは大変難しい。今年度の活動で、本校のNIE活動が盤石とは言い難いが、少しずつチームとして、学校全体で動きつつある。個性・長所を活かす活動により、子ども達は素晴らしい表情を見せる。ただ、特定の担当者が全てを企画・実施する活動は、単発で終わってしまう可能性がある。一人で出来ると思うようなことでも複数で計画し、子ども達の実態や変容を注意深く見守ることが大切である。

(参考資料：新聞記事を利用した道徳授業例)

中 学 校	主題名 異性についての理解を深める 内容項目B〔友情・信頼〕 教材名 「・・・・・・・・」 (〇〇新聞 〇月×日) 「私たちの道徳」 p.68
-------	---

- 1 ねらい 異性についての理解を深め、人間関係を深めていく。
- 2 教材について 本教材は、現在の若者達が考える男女交際の現状が書かれている。生徒自身の思いに合わせながら、交際の在り方や人間関係作りを考えていくための教材である。
- 3 展開

過程	○活動(◎中心的な発問) ・子ども達の反応	◆指導上の留意点
導入 5分	○異性の好き、嫌いをあげてみる。 ・男は楽そう、色々できる。 ・女は苦労する、おしゃれができる。 ・考えたことがない。	
展開 前半 15分	○生まれ変われるとしたら、あなたは男、女どちらになりたいか発表する。 ○アンケート結果が表していることは何なのか話し合う。	アンケートで集計し、「なぜ」そう思うのかを発表させる。
展開 後半 20分	○男女の理解・協力において、異性を思う気持、恋愛は大事、次の格言から□□の言葉を考え、発表する。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> □□ ということがなければ真の恋愛は成立しない (ドイツ哲学者フィヒテ) </div> ◎新聞記事を読み、自分と照らし合わせて発表してみよう。	異性を思いやる気持ちに気づかせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> 現在の恋愛観を表した新聞記事を読み、男女交際の在り方を考える。 </div>
終末 10分	○「私たちの道徳 p.68」にまとめる。 中学生の男女交際について考えてみよう。 ・お互いの気持ちを考えた交際にしたい。 ・楽しい恋愛をしてみたい。 ○教師の説話	

実践のポイント

- | |
|--|
| ○内容項目に合う新聞記事をこまめにストックしておく。
○文書を読み取る習慣が教師、生徒共に必要である。
○生徒・時代に応じて新聞記事を変えていくとよい。 |
|--|